

上海・崇明島における日中共同「自然がっこう」プロジェクト
第1回「自然がっこう」実施報告書

2012年4月19日
社団法人ときの羽根
代表理事 久田治子

■目次

●報告書作成にあたって	2-3
・開催経緯	
・開催目的と第1回「自然がっこう」を終えて	
●上海崇明島での「自然がっこう」開校に向けて	4~6
・趣旨	
・どのように実施するのか	
・プロジェクトの背景・目的	
・プロジェクトにより期待できる成果	
・ポストCOP10の日本発国際貢献事業として	
●第1回「自然がっこう」開催タイムテーブル	7-8
●開校前アンケートの実施と結果	9
●第1回「自然がっこう」開催概要	10
●第1回「自然がっこう」プログラム報告	11~23
・開校式	
・開校式出席者一覧	
・講義「環境教育の意義としくみ」	
・講義「環境教育リーダーの育成」	
●受講者アンケートの実施とその結果	24~31
●社団法人「ときの羽根」について	32-33

■ 報告書作成にあたって

1. 開催経緯

2010年7月、上海市政府・国連環境計画共催の「上海崇明島国際フォーラム」に招聘され、上海崇明県政府と一般社団法人ときの羽根の間で、低炭素社会構築を目指す生態島建設に向けた日中合作事業（環境助成活動・日本文化の紹介活動等）の合意書に調印し、上海・崇明島における日中共同「自然がっこう」プロジェクトがスタートしました。

トヨタ自動車株式会社「トヨタ環境活動助成プログラム2010」、公益信託 愛・地球博開催地域社会貢献活動基金「あいちモリコロ基金」をはじめ多くの方々のご理解とご支援を受け、第1回「自然がっこう」を2011年5月に開催する予定でありましたが、東日本大震災によりやむをえず延期しました。その後、崇明県生態科学技術普及協会および上海対外科学技術交流中心との協議・調整を重ね、2012年2月28日・29日に開催することができました。



合作事業合意の調印 2010年7月7日
上海市崇明県科学技術委員会 主任 顧松蘭氏
社団法人ときの羽根 代表 久田治子

2. 開催目的と第1回「自然がっこう」を終えて

上海・崇明島における日中共同「自然がっこう」プロジェクトは、中国政府が「持続可能な地域」モデルとして低炭素経済社会建設を目指す上海崇明島において、上海市科学技術委員会国際合作処、崇明県政府等との緊密な協力体制の下、生態系保全と産業振興の両立を主題にした日中合作の「上海崇明島自然がっこう」の開催・運営を通して、

- 1) 地球規模で考え、地域社会で貢献する環境教育推進者の養成
 - 2) 環境の大切さを知り、自発的に行動する児童・生徒の育成
 - 3) 「自然がっこう」を通じて日中の環境教育現場の交流を促進する
 - 4) 自然保護教育の学習を通じて、日本の技術や産業の紹介と普及を図る
- を目指しています。

こうした開催目的の下、第1回「自然がっこう」は、上海市政府、崇明県政府のきめ細やかな準備・体制により滞りなく終えることができました。中国側からは、教え込むのではなく、また答えを一つに絞り込むのではなく、教師と一緒に子供たちが主体的に感じ、考え、行動することを主眼においた講義スタイルに高い評価が寄せられました。「三つ子の魂百まで」と申しますが、次代を担う子供たちへの環境教育の重要性を確信した「自然がっこう」でした。今回の「自然がっこう」は両国にとって小さな一歩ではありますが、上海崇明島から中国全土へ、そして世界へと環境教育の重要性を働きかけていく使命を新たにしました。



2012. 3. 28 「自然がっこう」開校式



2012. 2. 29 ワークショップ

■上海崇明島での「自然がっこう」開校 に向けて

一般社団法人ときの羽根 代表 久田治子

1. 趣旨

中国が「持続可能な地域」モデルとして低炭素経済社会を建設しようとしている上海市崇明島において、上海市科学技術委員会国際合作処、崇明県政府、地域住民、専門家との緊密な協力体制を確立し、生態系保全と産業振興の両立を主題にした自然学校を設立します。一般的な箱物建設ではなく自立を目指した人材育成、産業創出につなげます。

2. どのように実施するのか

中国・上海市崇明島のラムサール条約登録湿地などをフィールドとして、「自然学校」と銘打った環境教育の人材育成プログラムを展開します。2005年の愛・地球博でも活躍した、子どもたちに自然の豊かさを伝える野外の指導員「インタープリター」と、屋内で生態系を中心とした環境問題を教える「環境教育リーダー」を日本から選定。フィールド調査として現地を訪れ、島民との情報交換や交流を通して地域の自然環境はじめ歴史的背景、風習、伝統を取り入れた独自の環境教育プログラムを作成します。そのプログラムの普及を図るため、環境問題に関心の高い現地の人たちを公募。集中講義でインタープリター、環境教育リーダーを養成する。受講者は「いきものせんせい」として、一般参加者対象の「自然学校」でプログラムを実践します。「自然学校」は崇明島の湿地帯にある既存の学校や散策路、観察施設を活用します。

本プロジェクトは弊社法人ときの羽根と上海市政府関係部署との正式調印により、上海市科学技術委員会科学普及処・上海市科学技術委員会国際合作処・上海市崇明県科学技術委員会・上海市崇明県教育会と上海市崇明県生態科普協会・崇明県教師修進学校と連携し、日中共同で継続的にプログラムが地域に定着していくことを目指します。「森づくり」の学校敷地の活用や農地の定期借用なども検討中です。



◆崇明島概要

上海の北端・長江の最下流
島の大きさは中国第三
東西約80キロメートル
南北約15キロメートル
面積1,229平方キロメートル
人口約70万人
産業／農業、海産物など

2009年10月末、上海、崇明、蘇州を繋ぐ【上海長江トンネル橋】（全長25.5km）が開通した。

3. プロジェクトの背景・目的

中国・崇明島は上海市の北端、長江の河口に位置する面積約1,225 km²の島。ラムサール条約に登録されている「東灘湿地」を中心とした豊かな自然が残り、農業を主産業とし、これまで大きな開発からは免れてきました。しかし上海万博の開催に合わせ、上海中心部と島を結ぶ海底トンネルや上海長江大橋が2009年に開通すると、多くの観光客が押し寄せ、リゾート的な開発計画も持ち上がるようになり、自然保護と開発の両立が急務の課題となっています。

本プロジェクトはこの島の問題に注目し、それぞれの立場から課題解決を模索し、2009年12月に現地視察をした産学官の任意組織が基となり、日本が実績を積んでいる環境教育における人材開発のノウハウを中国側に提供し、中国各地の環境問題に役立てられるようなモデル的事業として計画します。愛知・名古屋はCOP10の開催地でもあり、これを通して蓄積されたノウハウやネットワークも生かして、日中の生物多様性保全に関する連携を深めていきます。

将来的には2014年に愛知・名古屋で開催されるESD「国連環境教育会議」に2010年から上海市政府と共同で取り組んできた環境教育合作事業として事例報告ができるようを常設的な「自然がっこう」の開校を目指します。また、今後の目標として、日本の自治体や企業のCSR・環境活動をシリーズで紹介する教育プログラムを組み、生物多様性を育む生態系保全に優れた最新環境技術の紹介・普及にも努めたいと考えています。

他に上海市内にある上海市政府施設での展示会（日本の科学技術、日本の文化芸術）の合作や上海崇明县政府枠のテレビ番組の制作（日本特集）など、具体的な上海市との連携並びにメディア進出を推進します。



広大な湿地景観
「崇明東灘鳥類国家級自然保護区」
240平方キロメートル
290種類の鳥類
豊富な生物資源
豊かな太陽光と風力資源

4. プロジェクトによって期待される成果

崇明島の東灘湿地には200万羽、290種類の鳥が生息し、うち72種類は日中を往来する渡り鳥だとされていますし、野生植物42種類、水生生物6種類も観測されています。こうした貴重な野生生物や湿地の植生を含む約360km²のラムサール条約登録湿地を将来的に最大限保全することを目指します。目標達成のためには現地の人材育成が欠かせず、本プロジェクトで、インタプリター・環境教育リーダーを育成し、本番の「自然がっこう」では大勢の参加者を対象にプログラムを実施することで、島を訪れる観光客のマナー向上を呼び掛けたり、自然保護のルールをつくってもらったりする予定です。

「小さく産んで大きく育てる」をモットーに、崇明島住民との血の通った交流を通して島民の幸福を基本に、中国政府が打ち出した理想の「崇明生態島建設」の方針に沿い、「自然がっこう」が中心となって、島内の交通インフラや環境技術の導入、エコツーリズム、環境に配慮した農業など新たな産業の育成にも貢献します。

5. ポストCOP10の日本発の国際貢献事業として

生物多様性の保全に向けて地球規模で議論されるCOP10以降、世界各地でこれに向けた様々な取組の展開が求められています。COP10で日本政府は、日本の気候風土に根差した「里山」の経験を世界に発信する「サトヤマ・イニシアティブ」を提唱し、今後これに基づく世界への貢献が課題となっています。

崇明島は、葦原豊かな汽水域の大きな湿地を有する島であり、日本と気候風土が似通っていることから、当事業は本イニシアティブの趣旨に沿い、ポストCOP10の日本発の国際貢献としてふさわしい内容と考えます。

中国・上海市政府は、開発ポテンシャルが極めて高い崇明島を持続的な発展が可能な環境モデル島にするプロジェクト構想を打ち出しており、この実現のために、日本始め環境先進国からの経験や技術による支援を期待しています。

当社団法人は、上海万博の日本館において日中友好の証と位置づけられている「トキ」を理念に抱く団体であり、上海市政府との合作事業合意の調印により、協働して環境教育事業を実施し、中国との持続可能な対等の友好関係構築を目指してまいります。



「崇明東灘鳥類国家級自然保護区」



■「自然がっこう」開催タイムテーブル

第1回「自然がっこう」は、以下のスケジュール・内容にて開催・実施しました。

期日	時間	内容	人・物	対象者および備考
2月28日 (火)	9:30	開会式		
		開会の辞	司会者	
		主催者および来賓挨拶	上海市科学技術委員会国際合作処長 傅国慶 (社)ときの羽根代表久田治子 豊田汽車(中国)投資有限公司 上海分公司 総経理 阪本敦様 日本国駐上海総領事館 新聞文化處主任領事 前川光様	
	10:15	「自然学校」合意書調印	崇明県科学技術委員会主任 顧松蘭 (社)ときの羽根代表久田治子	
	10:30	「自然学校」開校除幕式		
	11:00～11:30	日中双方による演出	独唱・生徒による楽器演奏など	
	11:30～12:30	昼食・休憩		
	12:30～13:00	講義「環境教育の意義としくみ」	講師:米倉彰一	講義形態:合併授業 講義手法:パワーポイント テーマ:自立を目指した人材育成 受講者:小・中学校の「生態崇明」の担当教師および「郷土課程」の研究作業室メンバー
	13:00～14:00	講義「小学生における自然学習の手法と実践例」	講師:森上章	
	14:00～15:00	講義「幼児期における自然学習の手法と実施例」	講師:岡本典子	
	15:00～15:15	休憩		
15:15～16:00	質疑応答・補足説明 アンケート「崇明島の自然・自慢など」	米倉彰一、森上章、岡本典子		

期日	時間	内容	講義形式および備考
2月29日(水)	9:00~9:30	ワークショップ「崇明島の自然・生態の保護・郷土愛」	講義形態:合併事業 講義手法:ワークショップ(1グループ5人程度) テーマ:自立を目指した人材育成 受講者:小・中学校の「生態崇明」の担当教師 「郷土課程」の研究作業室メンバー 講師:米倉彰一・森上章・岡本典子
	9:30~10:00	ワークショップ「崇明島の環境教育テーマを考える」	
	10:00~10:45	グループ発表「崇明島の環境教育テーマをプレゼン」	
	10:45~10:50	発表されたテーマに投票	
	10:50~11:00	投票結果発表→今回の崇明島環境教育テーマ決定	
	11:00~11:30	環境教育実技『みんなで踊ろうエコソング』	
	11:30~12:30	昼食・休憩	
	12:30~13:00	ワークショップ「各地域の環境教育目標を考える」	講義形態:合併事業 講義手法:ワークショップ テーマ:自立を目指した人材育成 講義内容:各学校のこどもたちに働きかける行動指針の作成 受講者:小・中学校の「生態崇明」の担当教師(指定者) 「郷土課程」の研究作業室メンバー 講師:米倉彰一・森上章・岡本典子
	13:00~14:00	ワークショップ「各校個別の環境目標を考える」	
	14:00~14:15	休憩	
	14:15~15:50	地域ごとに成果発表と講師のコメント 実践へのポイント[PDCA]の説明 質疑応答	講義形態:合併事業 講義手法:ワークショップ テーマ:自立を目指した人材育成 講義内容:地域の自然・歴史・伝統を取り入れた 環境教育プログラム作成 受講者:小・中学校の「生態崇明」の担当教師 「郷土課程」の研究作業室メンバー 講師:米倉彰一・森上章・岡本典子
	15:50~16:00	閉会の辞	主催者

■開講前アンケートの実施と結果

第1回自然がっこう開催に先立ち、今回受講する上海崇明県の教師の皆さんに崇明島の自然、環境、文化、誇りなど持続可能なビジョンについて改めて見つめていただくことと、講師陣の崇明島に対する生きた予備知識を得るため、以下のアンケートを実施しました。

アンケート内容

- 1 崇明島と言えば、どんな料理、味が一般的ですか？
 - ・他の地域と特に変わりなし（45）・特産品※がある（15）・特徴のある料理がある（10）
※羊肉料理、農家料理（野菜中心料理）、まめ料理、地鶏料理、崇明蟹
- 2 崇明島の風景といえば、何を思いつきますか？
 - ・東灘湿地（50）・森林公園（50）・明珠湖（15）・前衛農場（10）
- 3 崇明島の最近のトピックスといえば、何ですか？
 - ・生態島開発（25）・崇啓大橋（10）・長江大橋（10）・不動産価格（5）・交通の利便性（5）
- 4 崇明島の自慢は何ですか？
 - ・生態島（20）・空気がきれい（25）・特産品（15）・良好な環境（10）・水がきれい（8）、グリーンな環境（5）
- 5 崇明島の人たちは、上海と比べてどんな特徴がありますか？
 - ・素直（60）・情熱がある（7）・のんびりしている（7）・優しい（5）・視野が狭い（5）
- 6 崇明島の子どもたちは、どのように育っていますか？
 - ・学校教育がメイン（16）・自然に成長（7）政府の方針に沿って教育（5）・祖父母が育てている（4）
- 7 崇明島で、何とかしたいと思っていることは何ですか？
 - ・生態島として発展させる・観光地として注目されている・新旧の文化を両立させる
- 8 崇明島で、未来に残したい物は何ですか？
 - ・自然豊かな生態島・先祖から引き継いだモノ（荒れ地を切り開いてきた歴史）の継承・伝統芸能・郷土料理
- 9 崇明島の人たちはどのような食事を摂っていますか？
 - ・朝食はしっかり（粥・中華まん・油条・塩卵・豆乳）・昼食は一汁二菜・夕食は野菜・肉料理中心（大切にしている）
夜食は摂らない ※以前は朝食中心であったが、最近は夕食がメインになりつつある）
- 10 崇明島の人たちはどこに買物等に行きますか？
 - ・食料品、日用品は島内（自転車中心）・その他は上海市内へ（バス中心）※マイカー利用は少ない

アンケートから

崇明島の自然と先祖から受け継いだ生活文化を維持しつつ、経済の活性化と両立を模索していることが見えてきた。

■開催概要

開催期間：2012年2月28日・29日

開催場所：崇明県教師進修学校 多目的会議室
上海市崇明県城橋鎮新崇北路6号

主催：上海市崇明県生態科学技術普及協会
一般社団法人ときの羽根（日本環境芸術文化研究会）

後援：上海市科学技術委員会科学普及処
上海市科学技術委員会国際合作処
上海市对外科学技術交流中心
上海市崇明県科学技術委員会
上海市崇明県教育局
上海留日同学会

協賛：トヨタ自動車株式会社「トヨタ環境活動助成プログラム2010」
公益信託 愛・地球博開催地域社会貢献活動基金「あいちモリコロ基金」
株式会社ジャスト
上海盛賀美餐飲有限公司（株式会社サガミチェーン）
G. K愛知紙管製造所
伊藤秀樹
荒深久明臣
林陽子

協力：特定非営利活動法人中部日本華人卓球協会



崇明県教師進修学校正門

（敬称略順不同）

■プログラム報告

開校式

2月28日（火）9時30分より崇明県教師進修学校 多目的会議室において、主催者はもとより、後援・協賛・協力をいただいた来賓の方々、受講者である上海崇明県の幼稚園・小学校の教師（150名）が列席して、開校式が挙行されました。開校式においては、主催者挨拶、来賓挨拶に続き、今後3か年（2014年12月まで）の「自然がっこう」開催合意書の調印式および「自然がっこう」開校を記念した銅製銘板の除幕式を行いました。開校式の演出として地元崇明県の小学生により民俗舞踊や楽器演奏、日本側スタッフの和服姿による「故郷」の合唱披露など文化交流により両国の友好を進めるとともに、日本側スタッフ・講師と崇明県教師との融和を図りました。



- ◆主催者挨拶 崇明県生態科学普及協会代表 宗林飛（崇明県教師進修学校 特級教師 校長）
（社）ときの羽根 代表 久田治子



主催者挨拶をする（社）ときの羽根代表 久田治子

- ◆来賓挨拶 上海市科学技术委员会国际合作处长・傅国慶様
豊田汽車（中国）投資有限公司 上海分公司 総経理 阪本敦 様
日本国駐上海総領事館 新聞文化處主任領事 前川光 様



来賓挨拶をいただいた上海市科学技术委员会国际合作处长 傅国慶様

- ◆合意書調印 崇明教師進修学校長・宋林飛氏
(社)ときの羽根 代表 久田治子

今後3年間にわたる中日自然がっこうプロジェクト
に関する合意書に調印する宋林飛校長と久田治子



- ◆銘板除幕式 崇明県科学技術委員会主任 顧松蘭氏
(社)ときの羽根 代表 久田治子

「中日自然がっこう」開校を記念する銅製銘板の序幕式
崇明県科学技術委員会主任 顧松蘭氏と久田治子



- ◆文化交流 崇明県小学生による舞踊披露
楽器(二胡)演奏
環境をテーマにした劇披露
女生徒による独唱披露
(社)ときの羽根スタッフの唱歌「故郷」合唱



◆開校式出席者一覧

・中国側（順不同敬称略）

来賓

李靖	上海市科学技術委員会科学普及長
傅国慶	上海市科学技術委員会国際合作処長
馮志勇	上海市崇明県副県長（上海市政府主催歓迎会）
顧松蘭	上海市崇明県科学技術委員会主任 上海市崇明県教育局長
宋林飛	上海市崇明県生態科普協会長（崇明県教師進修学校長）
呉志平	上海市崇明県生態科普協会 責任者
陶永輝	上海对外科学技術交流中心 副主任
单霖霖	上海对外科学技術交流中心 高級項目主管 崇明県幼稚園・小学校郷土課程担当教師（150名）

・日本側（順不同敬称略）

来賓

前川光	日本国駐上海総領事館 新聞文化處主任領事
李建華	同済大学大学院教授、上海ジェトロ顧問
单谷	(独) 科学技術振興機構研究開発戦略センター中国総合研究センターフェロー兼主査
阪本敦	豊田汽車（中国）投資有限公司 上海分公司 総経理
杉村典彦	(株)サガミチェーン中国室長
住本親俊	(株)サガミチェーン中国室マネージャー
久田治子	(社)ときの羽根 代表
足立幸治	(社)ときの羽根 顧問
郭慶華	(社)ときの羽根 顧問 国際弁護士
米倉彰一	講師リーダー
森上章	講師
岡本典子	講師
王卓	愛知県立大学大学院美術学部日本画科研究生卒
孫犁	愛知県立芸術大学大学院美術学部デザイン科中退



ご祝辞を頂戴した豊田汽車（中国）投資有限公司
上海分公司總經理 阪本敦様



ご祝辞を頂戴した日本国駐上海総領事館
新聞文化處主任領事 前川光様



「自然がっこう」開校記念の銅製銘板



記念品の贈呈式。



(社)ときの羽根スタッフの唱歌「故郷」合唱



開校式で披露された地元小学生の演技を鑑賞
する参列者



開校式と一日目講義会場の崇明県教師進修学校
多目的会議室



崇明県教師進修学校正門



上海市中小学郷土課程研究基地正門。
会場となった多目的会議室はここに。

■講義内容報告

はじめに

講師：米倉彰一

上海市崇明島での環境教育プロジェクトに講師として参加することになった。講演会であれば、相手のニーズを考慮しつつ与えられたテーマについてお話しすれば事足りるかもしれない。しかし今回の中国側のニーズと日本側『社団法人ときの羽根』の果たすべき使命に鑑み、中国における環境教育に関し、意識から行動への定着をゼロからプロデュースする必要性を強く思った。

当初予定されていた崇明県教師進修学校での受講生は高校の先生で、すでに準備が進んでいた。しかし私は、受講生は幼稚園の先生と小学校の先生に変更してほしいと要望した。一見レベルが低そうに思えるかも知れないが、意識から行動への定着は、感性を育む時期…人格が形成される基本中の基本の幼少時期こそが最も重要であり、小さな子どもの持っている力は、家庭や地域への波及効果が非常に大きいため、まずそこから着手すべきだと考えたからである。

日本側も中国側も私の我儘を理解していただき、受講生の総入れ替えとなった。当初11月に予定していた自然学校も、準備の都合で2月に延期された。本当に真剣に定着を望んでいるのだなと意思統一ができたことに感謝し、具体的な講義内容の検討に入った。定着のために必要なしくみについてはテキストに書かせていただいたが、何よりも教育現場を大切にしないとしくみが活かされないことは学んできたし、中国でも然りだろう。そこで、受講生の質疑や共感する部分に配慮するため、現場の第一線で素晴らしい環境教育の実績のある二人に呼びかけた。森上さんと岡本さんである。二人は特に同じ地域での連携や、園から学校への移行などを重視し、拘って選任させていただいた。

二人には、保育園や小学校での実際の活動の継続と定着に必要な、コーディネートの仕事や進め方について担当してもらった。小さな頃から身近にいる先生が感性を育み、子どもに芽生えた意識が言葉になり、言葉が行動に、行動が習慣に、習慣が人格になって、環境にやさしい社会に変えていく原動力となることをはたらきかけていただいた。



1日目講義（講義形式） 自立を目指した人材育成（座学）

会場 崇明県教師進修学校の多目的会議室

講義内容 「環境教育の意義としくみ」

- (1) 環境教育は心の教育。環境だけでなく平和や多文化共生、防災などにも有効。小さな子どもの頃にする必要があるが、ちょうど皆さんが一番大事な時期の子供さんを教育している。教え込む方法ではなく感性を育むこと。おもいやりの心、やさしい心、感謝の心を持つこと。相手の気持ちになって考え、行動することが大切。
- (2) 感性を育むためのアプローチの仕方は多様。様々な知恵や知識や経験を持った地域の人は、まちの財産。子供たちに語りかけてもらうことは未来への投資。学びを未来へ伝え、残すことが大切。心の教育と生涯学習の連携で持続可能に。環境教育だけでなく、福祉政策、長寿政策、コミュニティにも同時にメリット。
- (3) 幼稚園・保育園では、①子どもに対するはたらきかけ（自然観察、エコソング、分別ゲームなど）②子どもの家庭に対するはたらきかけ（園長だよりや挨拶でのはたらきかけ）③行事でのはたらきかけ（運動会や文化祭などでのはたらきかけ）の3つのことをすることを提案。
- (4) 学校では、①子供に対するはたらきかけ、②生徒が自主的にエコに取り組むこと、③学校全体の行事でのとりくみの3つのことをすることを提案。
- (5) しくみの定着には、しかけとしあげが必要。しかけは認定制度。3つの取り組みを実施していることを審査して認定証を渡す。子供や地域に伝え、認定証を誇りに感じてもらい、さらなる活動の定着を図る。
- (6) 仕上げは、模範的にがんばっているところをPR。広報誌や新聞に載せるか、環境イベントにでてもらう。どちらも話題性が高く、活動の活性化を図る。
- (7) 実績として、環境を保全する気持ちが子供たちに自主的に芽生えた。3歳や4歳の園児が、やらされているではなく自分で考えて行動。環境保全の意識と行動、そして言動が子供から家庭、そして地域にも広がった。小さな子供の力は中学生や高校生にも劣らない。崇明島から上海市、中国全土への波及を期待。
- (8) エコソングの活用と効果を紹介。

講義の成果（感想）

アンケート結果から、大部分が伝わっていることに驚いている。エコソングをDVDで流して紹介したが、かなり会場が和んで笑顔があふれた。2日目のエコソングにつながると思った。崇明島でエコソングの定着ができないか考えた。

定着に向けて望むこと

崇明県教師進修学校で、生態崇明エコキッズ・エコスクールのようなしくみを構築することが、定着に向けて大きく前進するだろう。動き出した教育現場での実践を、どこがマネジメントしていくのが課題。テキストに書かせていただいているが、レクチャーを要すると思う。自然学校とは別の企画運営に関する支援をしていきたい。

次回へ反映すべきポイント

幼稚園・小学校での環境活動を支援する環境教材の提供、人材育成、サポーター制度の構築と育成、環境情報などの提供に関する事務局への情報提供・支援の実行。

2日目講義（ワークショップ） 自立を目指した人材育成（企画・実践）

会場 崇明県教師進修学校の多目的会議室

講義内容 環境教育リーダーの養成

講義内容については、ワークショップの司会・進行を担当した岡本さんの報告に詳細があるので参照されたい。

全体の講義の成果（感想）

国際交流・国際理解という観点から、久田代表、足立顧問同様に3人の講師も日本文化の象徴である呉服姿で1日目の講義を行った。文化や教育方法の差異がある中で、ワークショップを通して教育現場に対するはたらきかけは非常によくできたと言える。

日本の教育現場での実績を紹介しながら熱弁を奮っていただいた森上さん、岡本さんに感謝申し上げる。特に2日目のワークショップの成果は、折紙の準備もさることながら、1日中一人で声を囁しながら笑顔で進行した岡本さんに拠るところが大きい。

森上さんには表彰状や音響の準備など細やかな配慮をいただいた。久田代表、足立顧問には、円滑な講義の進行のため最大限の交渉や支援、様々なアドバイスを戴いた。

受講者の意見・感想については、末尾にアンケートの集約を掲載しているので参照されたい。各方面で成果の検証を行う際、役立てていただければ幸いである。

定着に向けて望むこと

「はじめに」にも述べたが、環境教育の成果として意識から行動への定着のために、今回は幼稚園・小学校を対象を絞り、効果的なはたらきかけを行った。小学生以下の家庭と地域での定着を図りながら、中学生・高校生・大学生・一般に対するはたらきかけにつながるしくみを構築することが必要と考える。中学生・高校生は学級活動や生徒会活動、大学生はサークル活動や自治会組織、大学祭実行委員会などが主体となり、毎日の当たり前の生活の中で、創意工夫により自分たちで考えてできる、または自分たちにしかできない環境保全や環境配慮型の生活のアイデアを出し合い、チャレンジしていくような姿勢を、先生が支援・指導していくことを望む。その先生の指導力の養成、政府や企業や地域が連携・協働していく支援体制など、はたらきかけを行っていきたい。しかしすべての基本は地道な幼児教育…育まれた感性である。

環境教育のしくみを定着させる時、それを補完するツールとしてエコソングがある。

今回紹介したエコソングは中国語版とはいえ、日本側の交通事情や現代社会文化で構成されている。講演会終了時、久田代表からも挨拶の中で『是非とも崇明県バージョンを作ってください』と提案された。歌詞を中国の文化に合わせ自分たちのエコソングを作り、自然学校のテーマソングにしてほしい。これは宿題である。

次回へ反映すべきポイント

今回の講義で、パワーポイントのバージョンが違ったことにより、崇明県側に多大なご迷惑をおかけした。既に送付した内容確認済のソフトで崇明県側は準備しており、間違いはなかったが、突然にその後一部変更した内容で実施しようとしたこと、そのソフトが互換性バージョンで準備していなかったことが原因。機材や道具を使用する際は、事前に十分確認し、直前に不具合が生じた場合でも、相手に迷惑をかけないように対応を講じなければならない。国際交流の基本の一つとして今後は十分注意したい。



■おわりに（中国側の皆さんへのお礼に代えて）

講師：米倉彰一

このたびは、私たち講師に対して、身に余るおもてなしと、きめ細かい最良のサポートをご提供下さいましたことを、まずもって厚くお礼申し上げます。心細やかなご配慮のおかげで、講師一同、本当に気持ちのいい環境の中で、すべてを出し切って講演をすることが出来ました。上海市政府、崇明县政府、崇明県教師進修学校の方々とお会いして、今回のプロジェクトに対する大変な期待と熱意を感じました。それと同時に、私たち人間と自然との共生を地球規模で語り合うことができ、次世代の為に何が私たちができるかを真剣に考えていこうという使命を共感することができました。

今回の自然学校では、小さな子供の頃から郷土の自然に親しみながら感性を育てていくことが大切であるという、心の教育の重要性についてお話をさせていただきました。ワークショップを通して、多くの先生方に賛同をいただいたと感じています。教え込むのではなく、答えを一つに絞るのではなく、教師と一緒に考えながら、子どもたちが主体的に感じて行動する力が育まれていくことと思います。それが後学として大人になっていく過程で基本になり、学び・伝え・残す仕組みになっていくと信じています。この仕組みの定着と進行管理の為に、各小学校・各幼稚園の取組みを認定する制度、環境サポーター制度、エコソング教材の作成を提案いたします。エコソングは崇明県版を期待しています。今後も協力を惜しみませんので、是非一緒に作り上げていきましょう。

今回の皆さんとの交流を通して、日本と中国は切っても切れない関係であることを再認識いたしました。お互い心の中の思いは同じだと思います。両国が前を向いて協力しあい、それぞれのいいところを学んで高めあいながら、上海から中国全土へ、そして地球全体へと、環境保全の輪を広げていきましょう！

今回の小さな一歩が、人類にとっての大きな一歩になることを願って止みません。日中の友好関係から、世界の子どもたちの幸せな未来が輝いて見えます。

最後になりましたが、開会式で見せていただいた、崇明県の子どもたちの素晴らしい演技とかわいい笑顔がいつまでも心に焼き付いています。謝謝！



エコソング「みんなで減らそうCO2」を歌い、踊る。先生たちも楽しそうです。

1 講義名（講義形式）

小学校環境教育プログラムのコンセプト 持続型社会の一員として

2 会場

崇明県教師進修学校 多目的会議室

3 講義内容

自然のすばらしさを子どもたちに

教師の役割 教師自身が感動する素材の発掘

- ・豊かな心が芽生える素材
- ・地域の魅力いっぱいの素材

自然と人間とのつながりを学ぶ子どもに

教師の役割 本物(積極的な生き方)にふれるきっかけづくり

- ・課題解決に懸命な生きざま
- ・協働を呼びかける生きざま

未来に向かって働きかける子どもに

教師の役割 実践力を引き出すネットワークづくり

4 講義の成果（感想）

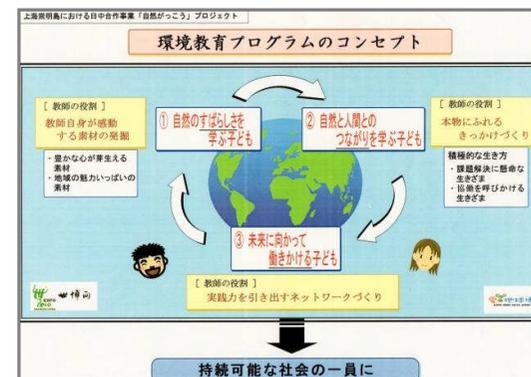
参加者から実践を通しての子どもたちの声をさらに聞きたいという質問があった。熱心に聞き入っていた証である。120コマのスライドを活用し具体的な実践事例を紹介する流れで講義を進めたことが効果的であった。参加者は、通訳による耳からの情報だけでなく、視覚から得た情報によって具体的な内容を把握できたと思われる。言語の異なる外国で環境教育を議論するときは、抽象論ではなく、具体的な素材で身近な生活感がある展開を進めることが、特に重要である。

5 定着に向けて望むこと

参加者が各学校・園で取り組んだ実践事例を記録に留め崇明県の各地区ごとで、お互いの実践事例を紹介し合う機会を設定して実践の深まりを期待したい。

6 次回へ反映すべきポイント

今回、参加者から教えていただいた崇明島の魅力を、子どもたちにどのように伝え、その魅力を中国全体そして世界へどう発信していくかという方向で議論を進める。



1 講義名（ワークショップ形式）

自立を目指した人材育成

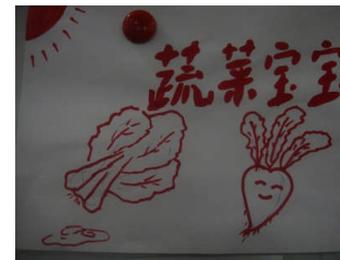
2 会場

崇明県教師進修学校 会議室

3 講義内容

崇明島の自然・生態のすばらしさを確認する。こうこうこう
崇明島の環境教育のテーマを考える。

崇明島は生態島であり、空気・水が野菜作りに適している。子どもたちにグリーンな野菜を作る知識と安全な野菜作りを保障するシステムをつくっていく重要性を子どもに理解させたい。



崇明島の各地区ごとで、取り上げる素材を浮き彫りにする。
「主要な産物は、すべて美食である。しかし、最近減ってきている魚もある。そこで、崇明島の自然の豊かさと最近見られる課題を子どもたちにも伝え、世界中の人と手を取り合って、具体的な行動をとらないと解決できないことを学習させていきたい。」と議論する。



4 講義の成果（感想）

崇明島の現実を直視し、ありのままの事実を子どもたちに学ばせ、崇明島の魅力の維持と課題解決を子どもたちに考えさせていきたいという強い熱意が感じられた。

5 定着に向けて望むこと

崇明島の生産物の質を上げるために尽力している人と子どもたちが出会うようにして、生産している人の意気込みや情熱を直接子どもたちが感じ取れるようにする学習プログラムを編成していきたい。言葉だけの抽象的な理解でなく、人間の内面にある誇りや感情をリアルにとらえる学習方法を重視するように促したい。

6 次回へ反映すべきポイント

渡航直前の李建華教授からのアドバイスにあったように、「わかりやすいような教材」を根底において今後も進めていきたい。先進国から来たという高慢な態度ではなく、「持続可能な社会づくりをともに進めていきましょう」という連帯の気持ちを肝に銘じて講義に臨むことが、深い信頼関係づくりにつながる。

第2日の講義内容と成果（感想） ワークショップ「崇明島における環境教育とは？」

参加者（先生一人ひとり）が主役となり、明日からの実践教育のきっかけになるよう、リーダー養成に重点をおいた。討議の中心は、事前アンケートを有効に活用し、崇明島の持っている魅力、現状、今後の課題を意識出来るよう、議題を設定した。司会と進行は岡本、会場の全体調整と記録は米倉さん、音響と表彰状作成は森上さんが担当した。

(1) お互いのことを理解しよう！

参加者同士の交流と今後の連携を図るため、5色の折紙（騙し舟）とエコソングを使いアイスブレイキングを行った。音楽が止まると近くの人と折紙を交換し自己紹介する事を繰り返し、折紙の色でグループ分けをした。会場では笑顔があふれて、和やかなムードに包まれた。



(2) グループ名、崇明島の環境教育のキャッチフレーズを決めよう！

折紙の色で5グループに分かれ、自己紹介後に話し合いをすすめた。どのグループも明るく楽しく活発に議論が行われ、情熱的な発表となった。安心・安全な水、空気、農業、自然を守ろうとする具体的な教育手法や対策、活用等の意見が多く、子どもたちから家庭・地域へと広がっていきましょう！という締め括りには、今回の自然学校のテーマを共有しあえた実感と、講義の手ごたえを感じて感動した。

(3) 一緒に歌って、踊ったエコソング「みんなでへらそう！CO2」

米倉さんが日本で企画・普及したエコソングを、中国語バージョンのDVDで紹介し、講師と会場の参加者全員で踊る。会場からは「是非、利用したい」といった要望が強く出され、全員にダビングして配布することにした。

(4) 各地域での取り組みを具体的に考えていこう！

キャッチフレーズを受けて、午後は地域ごとのグループ編成に変更し、各地域の特徴を活かした環境教育の取り組みを議論し、発表を行った。

最後は、自分の学校や園で、今後どんな取り組みが出来るかを一人5個以上考えて、グループで発表すると共に、事後のアンケートで意見を集約するようにした。



まとめ

崇明県教師進修学校長の挨拶で「環境教育は教えるのではなく、課題から自分たちで考えるということ、答えは一つではないということ学んだ」と総括された。

定着に向けて望むこと・次回に反映すべきポイント

第1回の自然学校で参加者自身が出した行動計画のその後をサポートしていくとともに、その範囲を広げていく方向で考えていけるように支援していきたい。



ゲーム方式でグループ分け。一気に雰囲気緩和。



活発に意見が飛び交うグループディスカッション。



グループを代表して環境教育テーマを発表。



ワークショップ形式の講義の様子と会場。



優秀なテーマ発表のグループには日本式の賞状を。



終始明るく、活発なワークショップの様子。



各グループから発表された環境教育テーマ。



長時間のワークショップをリードする岡本講師。



和服姿の講師とときの羽根スタッフ。

■受講者アンケート結果

2日間の講義を終えた最後の時間でアンケートを実施した。その一部をご紹介します。

NO.1

1 講義を受けた印象

米倉 ユーモアがありプロフェッショナル。

森上 学識が深くまじめに話を進める。

岡本 まじめに仕事をし、休み時間も研修に参加した人々と交流した。

2 自然学校に参加して習得したこと

日本で行政側から市民まで、みんなCO2削減、環境保護を重視していることがわかった。理論的な紹介だけのみならず、実際の活動や指導方法もわかった。

3 自然学校での成果を活かし、学校や幼稚園で実践したいこと

(1) 園の特徴や子どもの特徴に応じて、園内で活動を行いたい。

(2) 園の先生とコミュニティのボランティアとの協働作業で、体験活動を行いたい。

(3) 保護者の指導で家または家の近く（地域）で体験活動を行いたい。

NO.2

1 講義を受けた印象

米倉 話がわかりやすく、子どもの心を惹きつける。礼儀正しい。

森上 ユーモアがあり、はっきりとしたわかりやすい話し方。

岡本 かわいい。子どもの心を惹きつける話し方。

2 自然学校に参加して習得したこと

グループに分け、グループ名やディスカッションの題材を決め、皆の前で発表する進め方（ワークショップのやり方）がわかった。

保護者とうまくコミュニケーションをとり、話す機会を創造することが有効だとわかった。

3 自然学校での成果を活かし、学校や幼稚園で実践したいこと

(1) 一緒に菜園を作り、それぞれ担当・当番を決めること。

(2) 自然の中に入り、溶け込み、体験を通して知識をマスターすること。

(3) マルチメディアを利用して、意識を高める環境を作ること。

NO. 3

- 1 講義を受けた印象
米倉 生き生きして、親切。
森上 真面目で謹厳な仕事ぶり。
岡本 親切。おう場で親しみやすい。
- 2 自然学校に参加して習得したこと
体験的・生活的・自然的な要素に由来する実践活動。
- 3 自然学校での成果を活かし、学校や幼稚園で実践したいこと
(1) 見学活動
(2) 年長組と年少組を集めて、体験活動を企画したい。

NO. 4

- 1 講義を受けた印象
米倉 謹厳でユーモアがある方。
森上 親切な方。
岡本 段取りよく話を進めていく方。
- 2 自然学校に参加して習得したこと
『生態崇明』を創っていく事業がわかり、緊迫感・使命感をより一層感じるようになった。
- 3 自然学校での成果を活かし、学校や幼稚園で実践したいこと
(1) 自然に近づく体験活動をしたい。
(2) 年長組と年少組と一緒に集めて行う体験活動がしたい。
(3) 身の回りのことから、小さなことから行動し、未来の崇明島はもっと空が青く、もっと水が清らかで、もっと美しい島人を目指していきたい。

NO. 5

- 1 講義を受けた印象
米倉 紳士的で、ユーモアたっぷり。
森上 真面目で謹厳的。
岡本 親切、優雅、きれい。
- 2 自然学校に参加して習得したこと
自由で開放的な雰囲気の中、グループでディスカッションできて、環境保護の意識をより一層高めることができた。
- 3 自然学校での成果を活かし、学校や幼稚園で実践したいこと
(1) 現地見学を企画したい。
(2) 年齢の違う子どもたちを集めて、体験活動を企画したい。
(3) 劇で、子どもにいい刺激を与えたい。

NO. 6

1 講義を受けた印象

米倉 とてもよかった。とても親切。

森上 話がとてもよかった。

岡本 とてもかわいい。

2 自然学校に参加して習得したこと

日本の教育方法、先生の授業態度、体験活動を通して学ぶことなど、楽しく学び、教えるモデルを体験できた。

3 自然学校での成果を活かし、学校や幼稚園で実践したいこと

(1) 校外の実践活動にたくさん参加すること。

(2) 自然に近づく体験活動を企画して、子どもたちが遊びながら学べるようにしていきたい。

NO. 7

1 講義を受けた印象

米倉 ユーモアがあって、明るい方。

森上 謹厳的。

岡本 情熱的、おう揚、きれい。

2 自然学校に参加して習得したこと

自然学校の中で、平等で和やかな雰囲気を経験し、環境保護の意識を高めることができました。

3 自然学校での成果を活かし、学校や幼稚園で実践したいこと

(1) 自然の観光地へ、子どもを連れていきたい。

(2) 子どもと一緒に、環境保護をPRしたい。

(3) 普段の授業に、環境保護の理念を取り入れたい。

NO. 8

1 講義を受けた印象

米倉 授業に力を注ぎ、やさしい方。

森上 自分を律しており、真面目な方。

岡本 責任を持って真剣に仕事をしており、親しみやすい方。

2 自然学校に参加して習得したこと

地域的な原因で、これまで崇明島の西部の環境しか知りませんでしたが、今回の研修で、講師の先生方のおかげで、これまで知らなかった現地の経済や文化の知識や、環境保護の意識について、たくさん勉強になりました。

3 自然学校での成果を活かし、学校や幼稚園で実践したいこと

(1) 学校で植物を植えてみたい。一部は先生たちが管理するが、もう一部は子どもたち自身で収穫を体験するものにしたい。

NO.9

1 講義を受けた印象

米倉 とてもよかった。プロフェッショナルな方だった。

森上 とてもよかった。しっかりした仕事ぶりだった。

岡本 親しみをすごく感じた。授業の段取りがとてもよかった。

2 自然学校に参加して習得したこと

子どもの生活に関わった授業の内容を選び、子どもの成長に役立つ授業方式を取り入れること。

3 自然学校での成果を活かし、学校や幼稚園で実践したいこと

(1) 学校の実情に応じて、交通安全教育を行いたい。

(2) お菓子好きの子どもがいるので、健康な食生活について体験活動を行いたい。

NO.10

1 講義を受けた印象

米倉 理念のもとで、実践的活動を行っていた。

森上 多方面で実践的活動を行っていた。

岡本 体験型の実践活動をたくさん取り入れていた。

2 自然学校に参加して習得したこと

子どもが、自由に能力を発揮できるように行うこと。

3 自然学校での成果を活かし、学校や幼稚園で実践したいこと

(1) 環境保護の問題を取り上げたい。たとえば、鳥類保護区の保護意義について、体験活動を行うことができると思う。保護区の場合、面積が多いと鳥類は全部自由に生活できるが、面積が少ないと、鳥類の一部が保護されることなく損失を受けることになる。

NO.11

1 講義を受けた印象

米倉 ユーモアたっぷりだった。

森上 仕事ぶりが謹厳だった。

岡本 活動企画が子どもの学習特徴に合致していた。話が面白くて生き生きとしていた。親しみやすい方だった。

2 自然学校に参加して習得したこと

子どもが自由な雰囲気のもとで活動することを、体験活動を通じて学習した授業はよかった。思い出になると思う

3 自然学校での成果を活かし、学校や幼稚園で実践したいこと

(1) 授業に探究活動を取り入れてみたい。

(2) 課外同好会のような活動がしてみたい。

NO. 12

- 1 講義を受けた印象
米倉 情熱的で親切だった。
森上 やさしかった。
岡本 親切だった。
- 2 自然学校に参加して習得したこと
『自然学校』の活動のおかげで、自然から教育の内容を探ることを学んだ。
- 3 自然学校での成果を活かし、学校や幼稚園で実践したいこと
(1) まわりの鳥類の保護から始め、環境を保護していく活動がしたい。

NO. 13

- 1 講義を受けた印象
米倉 情熱的でやさしかった。特にエコソングでは生き活きとしていた。
森上 啓発的な話で我が校の仕事内容と近かった。
岡本 親切で自然な感じだった。
- 2 自然学校に参加して習得したこと
(1) 自然から授業の内容を探し、身の回りの事柄で体験活動を行うこと。
(2) コミュニティの力を借りること。
(3) 子どもが地球を愛するようになる豊富な体験活動を行い、自分もその活動に参加すること。
- 3 自然学校での成果を活かし、学校や幼稚園で実践したいこと
(1) 身の回りの鳥類を保護する活動から始めること。
(2) 身の回りの魚や蟹の養殖のことを、体験活動に取り入れること。

NO. 14

- 1 講義を受けた印象
米倉 生き活きとしていた。
森上 やさしくて親切だった。
岡本 話し方が子どもたちの心を惹きつけ、私たちをもっと考えさせるようにも話してくださった。
- 2 自然学校に参加して習得したこと
環境保護の重要性と緊迫性。
- 3 自然学校での成果を活かし、学校や幼稚園で実践したいこと
(1) 鳥類を守ること。
(2) 身の回りの環境を保護する。たとえばゴミの回収、緑化面積の拡大。
(3) 省エネの方法。

NO. 15

- 1 講義を受けた印象
米倉 生き活きとしていた。
森上 適切で実用的な内容だった。
岡本 やさしくて生き活きしていた。
- 2 自然学校に参加して習得したこと
『環境保護と生態系』自然から授業内容を探すこと。
- 3 自然学校での成果を活かし、学校や幼稚園で実践したいこと
(1) 鳥類を守ること。
(2) 現在の生態系を守ること。
(3) 現在の資源を節約すること。

NO. 16

- 1 講義を受けた印象
米倉 活発で、紳士的だった。
森上 真剣で、学識が深い。
岡本 親切、優雅、情熱的。
- 2 自然学校に参加して習得したこと
自由で、開放的で、活発に体験できる授業内容。体を動かす内容と静かに学ぶ内容と両方あること。子どもの学ぶ心を惹きつけ、とてもよかった。
- 3 自然学校での成果を活かし、学校や幼稚園で実践したいこと
(1) 子どもたちを連れて、美しいものを見学したい。
(2) 環境保護の重要性を理解して、子どもの時から行動し、保護者や身の回りの人々に、よい影響を与え、協働で、環境を守っていくようにしたい。

NO. 17

- 1 講義を受けた印象
米倉 謹厳的で学識が深い。
森上 段取りよく話を進め、話がわかりやすい。
岡本 親しみやすく、やさしくて、子どもと一緒にになれる。
- 2 自然学校に参加して習得したこと
授業方式が大変勉強になった。固い形にこだわらずに、子どもどうしで交流でき、踊りや歌などの形は、子どもに受け入れやすい。
- 3 自然学校での成果を活かし、学校や幼稚園で実践したいこと
(1) 田舎の祖父母と一緒に、家庭菜園を作ること。
(2) 子どもを連れて、コミュニティでゴミ分別を宣伝したい。
(3) 環境保護を宣伝する小型新聞を、子どもたち自らで作ってみること。

NO. 18

- 1 講義を受けた印象
米倉 話が面白い。
森上 謹厳的。
岡本 活発。
- 2 自然学校に参加して習得したこと
自由な雰囲気子どもたちを啓発し、能力を開発するものだった。
- 3 自然学校での成果を活かし、学校や幼稚園で実践したいこと
(1) 自然を体験してもらいたい。
(2) 郷土資源を利用して、体験活動を企画したい。
(3) 外部の人を招いて、また自分自身も出かける活動を通して、学識を深めたい。

NO. 19

- 1 講義を受けた印象
米倉 プロフェッショナルで、親切。
森上 とてもよかった。謹厳。
岡本 非常に親切。プロフェッショナルで、非常にかわいい。
- 2 自然学校に参加して習得したこと
自然を活用して、子どもの環境保護意識を高めること。
- 3 自然学校での成果を活かし、学校や幼稚園で実践したいこと
(1) 友だちと一緒に遊ぶこと。
(2) CO2削減をテーマにした踊り。
(3) 自ら問題を発見して、解決していく教育。
(4) 農業(栽培)体験活動。
(5) 開放式の思考能力を開発すること。

NO. 20

- 1 講義を受けた印象
米倉 ユーモアたっぷりで、明るい方。
森上 謙虚で、謹厳な方。
岡本 親切で、おう揚な方。
- 2 自然学校に参加して習得したこと
(1) イベントやゲームの中で、環境保護のことを、伝えること。
(2) ディスカッションで問題を発見すること。
(3) 協働で対策及びそのカタチ、方法を考えること。
(4) 体験活動を通して環境保護の意識を高めること。
- 3 自然学校での成果を活かし、学校や幼稚園で実践したいこと
(1) ゴミの分別
(2) リサイクル
(3) 野菜・花を作ること。

NO. 21

- 1 講義を受けた印象
米倉 謹厳な仕事ぶり。
森上 学識が深い。
岡本 活発で親しみやすい。
- 2 自然学校に参加して習得したこと
(1) 子どものコミュニケーション能力を養うこと。
(2) 授業時間を子どもに与え、子どもが体験活動を通して学識と能力を高められるように授業を企画すること。
- 3 自然学校での成果を活かし、学校や幼稚園で実践したいこと
(1) 野菜を作る体験活動。
(2) CO2削減をテーマにした歌を子どもたちと一緒に歌ったり、折紙をしたりしたい。
(3) 崇明生態島の美しさを子どもたちに体験してもらい。子どもたちの島を守る意識を高めていきたい。

NO. 22

- 1 講義を受けた印象
米倉 人付き合いがよくて、ユーモアがあった。
森上 謹厳的で学識が広い。
岡本 親切、おう揚、情熱的。
- 2 自然学校に参加して習得したこと
(1) 環境を守る意識が高まった。 (2) 『自然学校』を企画する意義がわかり、環境保護の知識を習得した。
- 3 自然学校での成果を活かし、学校や幼稚園で実践したいこと
(1) 子どもと一緒にエコソングを歌っていききたい。歌、踊り、遊びを通して、環境保護活動の重要性を体験する実践をやっていききたい。
(2) 自然、エコ、環境保護を主題とした授業をしていきたい。出し物(演出)などを通して、子どもの環境保護意識を高めていききたい。
(3) 保護者、コミュニティの力を借りて、一緒に環境保護の活動に参加していききたい。

NO. 23

- 1 講義を受けた印象
米倉 情熱的。人付き合いがよくて、話が子ども心を惹きつける。
森上 謹厳的。ユーモアがあって学識が広い。
岡本 親切、若い、きれい、おう揚な感じ。
- 2 自然学校に参加して習得したこと
(1) 環境保護の意識を高めること。 (2) 様々な活動で、環境保護の理念を伝えること。 (3) 活動の多様性、協働性。
- 3 自然学校での成果を活かし、学校や幼稚園で実践したいこと
(1) 現地見学を通して、環境保護を理解すること。
(2) エコソングで、子どもが歌ったり踊ったり出来るような企画をし、環境保護の理念を堅持すること。
(3) 環境保護をテーマに寸劇を作り、子どもたちに体験してもらう。
(4) 環境保護のフレーズを入れたものを作り、街でPRすることを企画する。
(5) 保護者やコミュニティの力を借りて、環境保護を最後までやり遂げる。

(注) 日本語訳は山根保育園児の陳睿怡の父が担当した。ここに謝意を表するとともに、寄せられた感想を紹介する。

園長先生へ。

アンケートの文字から、名古屋市の方々が上海で伝えようとしたこと、現地の人たちに好評されたことを、よく知りました。きっと、現地の先生や子どもたちに、いい刺激を与えただろうと思います。 中国人の一人として、謝謝!

■ 社団法人「ときの羽根」について

◆ 設立目的

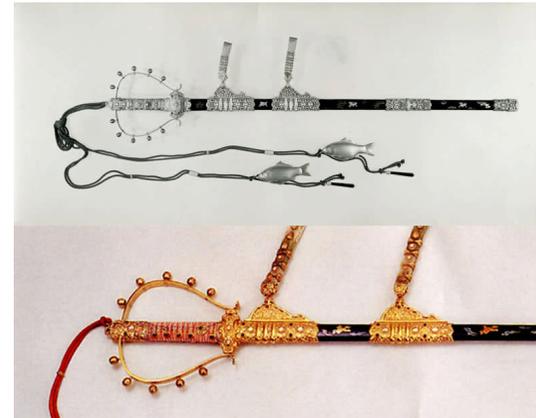
中学時代からの同級生（故谷津由利子*2012. 2. 16歿）と2人で2009年11月30日に一般社団法人ときの羽根を設立しました。今までの活動を踏まえ、「日本文化の復興、継承」「日本と中国の友好関係」および「生物多様性の保全」等に取り組み日本人の美意識を基本に恒久的な世界の平和を目指します。

◆ 「ときの羽根」命名の由来

約1300年前から、20年に1度、遷宮を繰り返している伊勢神宮はその都度、建物だけではなく、宝物品も正確に復元してきました。伊勢神宮に象徴される日本神道は、経典も戒律もありませんが、20年ごとに遷宮を繰り返すということで、海の産物、山の産物、職人の技術などを継承してきました。それは、20年ごとの生態系バランスのチェック機能であり、人間文化の営みと後継者育成のシステムを循環させた大いなる智慧であったといえます。

伊勢神宮におさめられる宝物品の品々は、衣食住全般にわたるさまざまなもので、そのなかに須賀利御太刀（すがりのおんたち）があり、柄（つか：刀剣の手を握る部分）に鶺鴒（とき）の羽根が2枚使われています。今まで1300年もの間、絶えることなく日本の鶺鴒（とき）の羽根が使われてきましたが、戦後の著しい経済発展の中で自然破壊が進み、貴重な鶺鴒（とき）は絶滅してしまいました（2015年10月10日/日本産最後のトキ「キン」が36歳で死亡）。*Nipponia Nippon*（ニッポニア・ニッポン）という学名を持つ日本の鶺鴒（とき）を絶滅させた我が国は、現在中国産の鶺鴒（とき）の繁殖に期待を繫いでいます。

21世紀、初めての遷宮が2013年に開催されますが、かろうじて絶滅前から保存されていた日本産の鶺鴒の羽根が使われ、須賀利御太刀（すがりのおんたち）が復元されます。しかし、40年後以降の遷宮においては、中国産鶺鴒（とき）の羽根に頼らざるを得ないのが現状です。



日本に古くから伝わる日本武尊（やまとたけるのみこと）が草薙（くさなぎ）の剣で八岐大蛇（やまたのおろち）を退治した神話は、剣を武器として戦いで使うだけでなく、悪を退治したり、人の命を守るために使うこともできることを教えてくれています。刀剣は、命を殺傷する武器であると同時に、握り方を間違えさえしなければ、人々に平和をもたらすことも可能です。さらに、古来より四季の変化に富んだ日本の美しい自然は、森羅万象に神が宿るという価値観を根付かせ、暮らしの中で花鳥風月を愛でる風習が、和歌・俳句や日本画など日本独自の自然を謳歌する文化を育んでくれました。まさに、日本産の鴛（とき）の絶滅は、日本文化や生物多様性の崩壊に対する警鐘を鳴らしているのです。

地球の未来を見据え、人類が、武器である刀剣を手にしなければならない時、柄（つか）に使われた鴛（とき）の羽根の意味する先人の知恵を思い出し、使い方を誤らぬ選択をすることを願い、日本と中国の友好関係の象徴でもある鴛（とき）をシンボルに、社団法人「ときの羽根」と命名しました。

一般社団法人ときの羽根 代表 久田治子

